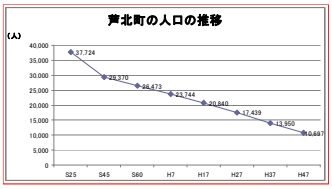
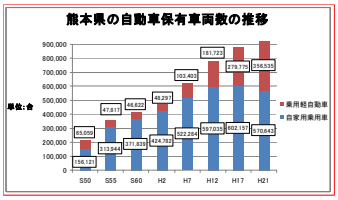
【現　状】

【地勢】
芦北町は熊本県の南部に位置し、東部には日本三大急流のひとつ球磨川が流れ、西部にはリアス式の風光明媚な不知火海に面した面積233平方km、人口2万人の町です。
また、万葉の時代から「葦北の国」として知られ、古くから陸海交通の要衝であったことから、城下・宿場町として発展した歴史ある町でもあります。
平成17年1月1日、田浦町と芦北町が合併し、新生「芦北町」が誕生しました。

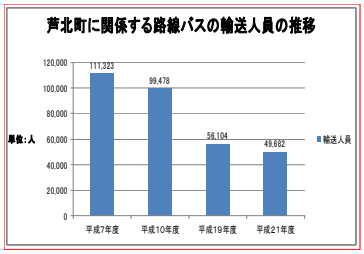
【路線バスについて】
バス事業は、地域内交通の重要な役割を担うものとして、通勤・通学・通院・買い物など、地域住民の生活と密接な関係にあります。
このバス事業を維持し、地域住民の足の確保を図ることは、地域全体のナショナルミニマム充足の観点から必要な施策でありますが、過疎地域では少子・高齢化を起因とする人口減少やマイカー普及などによる乗客数の減少に伴いバス事業者の経営が悪化しており、廃止せざるを得ない現状となっています。

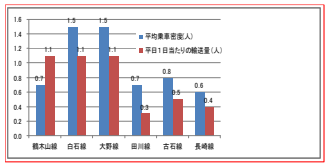


＋



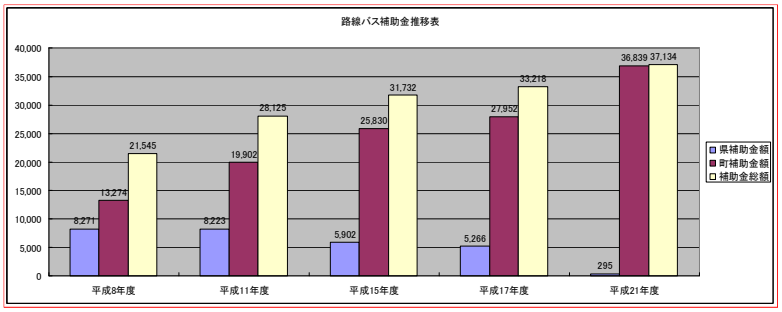
＝

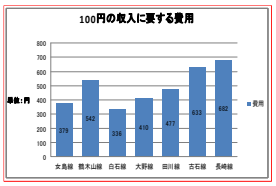


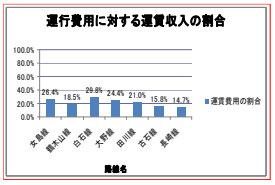


【課　題】

路線バス事業は、運賃収入で燃料や人件費等の経費が賄われるのが本来でありますが、利用者数の減少により経営が悪化しており、町内の全ての路線が赤字路線となっています。
このことから、住民の日常の足を確保する目的で、長年にわたり赤字部分を運行費補助金として支出していますが、毎年、この運行費補助金額は右肩上がりに上昇しており、効率的な運行体制の確立は、本町のみならず路線バス事業に取り組む全国ほとんどの自治体の喫緊の課題となっています。







芦北町の路線バスの現状と課題 → 対策

平成22年10月31日(日)
熊本県芦北町
企画財政課

【対　策】

路線バスの再編に際しては、運行に至った過程や教訓を検証し、現状維持・前例踏襲にとらわれること無く効率・効果的・財政的などの様々な観点に配慮された公共交通手段としての地域の実情に即した持続性有る"地域の足"を確保・推進する必要があります。
現在までに本町では、路線バスの運行と経営の全てをバス事業者に委ねてきましたが、本年6月より運行する「ふれあいツク～ルバス」は、自治体として運行と経営に関わると共に、従来のバス路線とスクールバス路線の重複を解消を図り、補助金に頼らない入札方式による新しい発想での運行スタイルで財政負担の軽減化と効率的な運行体制の確立を図って

芦北町路線バスの"いま"

a：利用者は減少し絶対数も少ない
b：路線バスは高齢者が利用
c：町内全路線が経営として成り立っていない

芦北町路線バス運行の"こんご"

A：抜本的な運行形態の改革！
B：モラルハザード的な運行体制の改善！
C：地域の交通形態は話し合いで！

→

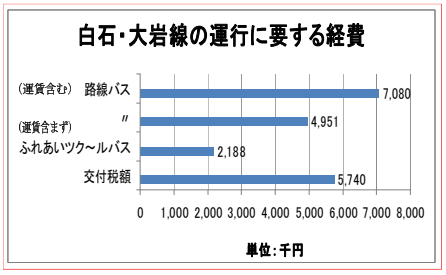
【目的】
A：増嵩する運行費補助金の削減！
B：効率的な運行体制の確立！

【形態】
スクールバス一般利用便の運行！

【運賃】
無償！

【ポイント】
A:住民サービスを低下させない！
B:通学の最優先！
C:安全面の確保！
D：住み良い中山間集落の創出！

【結　果】

→

→